

## 辞書に見られる多義立項基準をめぐって

—— 状態、時間、類型、程度、価値、性向形容詞の場合 ——

丹 保 健 一

### On Classification of Multiple Word Senses in Dictionaries

—— In the Case of Polysemic Adjectives ——

Kenichi TANBO

〔キーワード〕 多義語、辞書、多義立項 状態形容詞、時間形容詞、類型形容詞、  
価値形容詞、性向形容詞

#### 〔要 旨〕

辞書に見られる多義語の多義分割（意味立項）の実態を、「あぶない」「おもしろい」「やさしい（易）」「やすい（易）」「おそい」「はやい（早・速）」「ふるい」「したい」「ひとしい」「めずらしい」「はげしい」「やすい（安）」「わるい」「よわい」「うれしい」「たのしい」の16語を対象として調査した。その結果、語用上の相違（慣用句、位相等）を別とすれば、これらの形容詞の多義分割の意味的な視点として、①具体性、抽象性 ②モノ性、ヒト性、コト（ガラ）性、③時間、空間、価値、機能、関係、程度、能力、精神、感覚、心情、④評価、（-、+）イメージ、⑤期待、等が重要な位置を占めることが明らかになった。

#### I. はじめに

本稿は、多義語の多義分割（意味立項）の基準となっていると思われるものを、現行辞書によって調査・分析し、多義分割の在り方を考える基礎資料を作成しようとするものである。すでにこのような目的で、位置形容詞（高い、低い、遠い、近い）、形状形容詞（大きい、小さい、長い、短い、太い、細い、丸い）、刺激形容詞（青い、明るい、甘い、痛い、美味しい、寂しい、寒い）、数量形容詞（多い、無い）、実質形容詞（新しい、重い、難しい）についての調査・分析（丹保（1990c）、（1991b）、（1992a））を試みた。また、日本語に対する多義語研究の現状及び課題については、丹保（1991b）で触れた。

##### I-1. 調査・分析対象語彙

調査・分析の対象とする語は、基礎語彙的性格を持つ現代日本語形容詞である。本稿で扱う語彙は、状態を表す形容詞「あぶない」「おもしろい」「やさしい（易）」「やすい（易）」、時間を表す形容詞「おそい」「はやい（早・速）」「ふるい」、類型を表す形容詞「したい」「ひとしい」「めずらしい」、程度を表す形容詞「はげしい」、価値を表す形容詞「やすい（安）」「わるい」、性向を表す形容詞「よわい」「うれしい」「たのしい」の16語である。これらの語彙は、次の条件によって選んだ。

(1) 次の分類において、「状態」「時間」「類型」「程度」「性向」に第一義があると考えられるもの。(必ずしも厳密なものではない。当面の目標にとって厳密さはそれほど要求されない。以下各々の形容詞を、状態形容詞、時間形容詞、類型形容詞、程度形容詞、性向形容詞と呼ぶことがある。なお、「あたらしい」「むずかしい」は各々、時間形容詞、状態形容詞とすべきであろうが、既に各々実質形容詞として扱っているのでここでは対象としない。各語の分類については稿を改めて述べたい。)

以下に示す分類は、大野・浜西(1981)を参考に行っているが相当の手直しを行っており見方によっては新しい分類といっても言い過ぎではないものである。

先ず、形容詞を大きく二つに分け、それらを『類語』に倣い、〔<性状>〕〔<性向>〕と名付ける。それぞれの分類の考え方及びそれぞれに含まれる語彙は次のようなものとする。

(1) 〔<性状>〕：物事(人間独自の事柄以外)についていうもの。

(2) 〔<性向>〕：人間独自の事柄についていうもの。

さらにそれらを各々次のように分類し、各々が含む語彙の範囲を次のように定めた。

〔<性状>〕

- ① <位置>：モノの位置、方向、位置関係を表すもの。
- ② <形状>：モノの広がり(長さ、広さ、かさ)、形を表すもの。
- ③ <実質>：モノの内実を表すもの。
- ④ <刺激>：五感が直接感じる刺激を表すもの。或いはその受けた感覚を表すもの。
- ⑤ <状態>：モノ及びコトのありさまから受ける印象を表すもの。
- ⑥ <数量>：モノ、コトを数、量的に捉え表すもの。
- ⑦ <時間>：モノ、コトを時間的に捉え表すもの。
- ⑧ <類型>：他を常に前提とするもの。
- ⑨ <程度>：度合、程度を表すもの。他の形容詞の度合・程度を表し得るもの。
- ⑩ <価値>：善悪、美醜等の評価を表すもの。(他の分類と重複することが多い。)

〔<性向>〕

- ⑪ <身体>：身体、身体部位、容貌、健康について表すもの。
- ⑫ <態度>：表情、身振り、態度等に見られるその人の態度を表すもの。次に示す分類<性質>と区別がつきにくいことが多いが、<態度>は意志的である点で異なる。しかし、実際の場面においてはその別は判断しがたいことが多いと思われる。
- ⑬ <性質>：性質、性格を表すもの。
- ⑭ <才能>：能力、才能を表すもの。
- ⑮ <境遇>：地位、身分、境遇等、置かれている社会的、人間的な位置を表すもの。
- ⑯ <心情>：心の内容や気持ち或いは直接的な感情を表すもの。

(2) 『日本語教育語彙資料(1)(2) 低学年初級』の形容詞語彙であること(『日本語教育のための基本語彙調査』において、a印が施されているもの)。ただし、類型を表す形容詞「したしい」「ひとしい」「めずらしい」、程度を表す形容詞「はげしい」は『日本語教育のための基本語彙調査』において「基礎語二千」とされている中から補ったものである。

### 1-2. 多義記述例採集辞書について

(1) 多義分割例は、身近にある辞書で、主として現代語を扱っているものによった。記述例を採集した辞書は、①『学研国語大辞典』②『新潮現代国語辞典』③『現代国語例解辞典』④『三省堂現代国語辞典』⑤『例解新国語辞典』の五つである。以下、各々『学研』『新潮』『現代』『三省』『例解』と略称する。

(2) この外、『現代形容詞用法辞典』『計算機用日本語基本形容詞辞書 IPAL (Basic Adjectives)』『基礎日本語』『動詞の意味用法の記述的研究』(以下、各々『用法』『IPAL』『基礎』『国研』と略記する)の記述も参考にした。

(3) 各辞書の特徴を本稿に関わりの深い部分についてまとめておく。

	「学研」	「新潮」	「現代」	「三省」	「例解」
目的	現代生活	現代生活	現代生活	学習 現代生活	学習
対象	一般	一般	一般	小高学年～ 一般社会人	中学生
語彙	現代語中心	現代語中心	現代語中心	学習語句 現代生活語	現代語中心
見出し語数； 概数	10万2千	7万7千	6万？	約6万	4万 解説し た語を含む基 本義詳しく
語積	細分	細分	普通		
多義記述	根本的意義を 先に	代表的意味に 重点		基本義から 特殊義へ	
用例	具体例豊富	和英語林集成 の例多し			
位相語等		慣用句諺は見 出し語中		位相の指摘 多し	

### 1-3. 方法

(1) 各辞書によってどのような意味が区切られやすい(独立して立項されやすい)かを見ていく。そこには言語直観が反映されていると思われるからである。

独立して記述されやすい度合いは次の式(私案)によって示す。

$$\text{各多義の独立度} = (1 / \text{辞書Aの多義数} + 1 / \text{辞書Bの多義数} \dots) / \text{辞書数}$$

各辞書の多義数に関しては、より実態を反映させるべく次のような処理をしている。より具体的には個々の語義における数値を参照されたい。

#### ① 複数の語義が当該辞書において分けられていない場合

イ. ある語義が、当該辞書において、他の語義と共に挙げられ、その語の意味を伴うこともあるとしてある場合は、その語義の数値に(1/2)を乗じたものをその辞書における独立度とする。

- ロ. ①において中心的な位置を占める語義は、単独の場合と同じように扱う。  
ハ. それらの語義が並列（同等の位置）に示されている場合は、各々  $1/2$  を乗ずる。  
ニ. その語義が下位の分類または先に示した意味に含まれることが明らかな場合は、 $1/2$  を乗ずる。

② 二つの意味を一つにまとめて示す場合、まとめられた語義の当該辞書における分割度は、各々の数値を加えたものとする。

(2) 分析の視点として、①その語の意味を成立させるのに関わっている意味要素の数、並びに形容詞との関係の相違、言い換えれば、必須の意味成分数および意味格（以下、この二つを総称して格体制と呼ぶことがある）の相違、②相互の各成分に見られる意味特徴の相違、を考えている。しかし、分析の過程でそれ以外の要素が出てくると思われる。

各成分の意味特徴としては、これまでの調査（丹保 1990c、1991b、1992a）によって挙げられた①具体性、抽象性、②モノ性、ヒト性、コト（ガラ）性、③〔時間〕〔程度〕〔評価〕〔価値〕〔刺激〕〔数量〕〔様態〕〔能力〕〔境遇〕〔情意〕等の内、①②の意味特徴が働いていることが先ず予想される。③のレベルの意味特徴は語彙によっては見られないものもあろうし、又新しい意味特徴や異なるレベルの意味特徴も準備する必要も出てこよう。この他、認知方法・感覚器官の相違も重要な位置を占めることが予想される。

(3) 扱う形容詞は先に示した通りであるが、補助用言、助動詞、接辞又はそれに類するものは対象外とする。

(4) 意味立項の配列順については今回は考慮しなかった。いずれ別の機会に扱うことにしたい。丹保（1991a）では形容詞の一部（形状形容詞）についてのみであるが触れた。

## II. 辞書に見られる多義分割。多義立項の実態

辞書名の右に記した数値はその辞書における多義数を示す。括弧内の数値は下位分類を含めたものである。

### 1) 「あぶない」

『学研』4

①「よくないことが起りそうで」はらはらすようだ。危険だ。②滅びそうな、またなくなりそうな状態である。③実現しそうな、成功しそうな。不安である。④たしかでなく、信用できない。

『新潮』2

①害がありそうで心配である。危険だ。②不確かである。信頼しがたい。

『現代』5

①危害または損害を受けそうで気がかりだ。危険だ。②じきにだめになりそうだ。死、破産、消滅などの状態に近づいている。③望むことが実現するかどうかわからない。あてにならない。④好ましくない状態が今にも起りそうだったという気持ちを表す。⑤安定していない。

『三省』4

①けがをしたり死んだりするおそれがあるようだ。②だめになりそうだ。③しっかりしていない。④信用できない。

『例解』2

①はらはらする感じで、とても安全とは思えない。②よくなるかどうかこころもとなく、悪い結果になりそうだ。

辞書に見られる多義立項基準をめぐって

辞書がどのような意味を取上げ、またどのような分け方（各多義の立項）をしているのかを見るために、とりあえずこれらの辞書によって取り上げられている意味で最小の意味的まとまりを持つもの（以下、辞書の多義の立項の仕方を見ていくために設定した意味的なまとまりを多義立項基礎単位と呼ぶことがある）を挙げることから始めよう。

「多義立項基礎単位」

- (1) 危険だ。害がありそうだ。
- (2) 無くなりそうだ。だめになりそうだ。
- (3) 望みが実現しそうなない。
- (4) 確かでない。信用できない。
- (5) 安定してない。
- (6) 好ましくないことが今にも起こりそうだった。

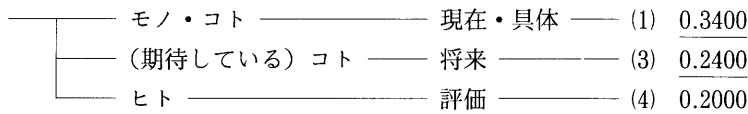
以上の意味が辞書によってどのように扱われているかをまとめたものが次の表である。（意味関係の枝分かれ図に用いる意味についてはその基礎単位のナンバー及び独立度の数値に下線を施した。）

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/4 ①	1/2 ①	1/5 ①	1/4 ①	1/2 ①	<u>0.3400</u>
(2)	1/4 ②		1/5 ②			0.0900
(3)	1/4 ③		1/5 ③	1/4 ②	1/2 ②	<u>0.2400</u>
(4)	1/4 ④	1/2 ②		1/4 ④		<u>0.2000</u>
(5)			1/5 ⑤	1/4 ③		0.0900
(6)			1/5 ④			0.0400

主要な多義について、それらがどのような意味関係によって分けられていると考えられるかを枝分かれ図として示しておこう。

「主要多義立項意味関係」



以下の各語彙においても同様の方法で示していくことにしたい。

2) 「おもしろい」

『学研』4

- ①ふつとちがっていて笑い出したくなるようすである。こっけいである。
- ②楽しくてつい、夢中になってしまうようすである。
- ③変化があって、たいくつしない。興味をそそられる。
- ④思うとおりで好ましい。

『新潮』 4

①ふつとちがっていて笑い出したくなるようすである。こっけいである。②楽しくて、つい夢中になってしまうようすである。③変化があって、たいくつしない。興味がそられる。④思うとおりで好ましい。

『現代』 3

①楽しい。愉快だ。また、こっけいである。おかしい。②興味がある。興味ぶかい。③望ましい状態である。多く打消の語を伴う。

『三省』 5

①気分が楽しい。②心がひかれて、興味もてるようすだ。③笑いたくなる感じだ。④おもむきがある。⑤（「おもしろくない」の形で）望ましい状態でない。

『例解』 3

①楽しくて心がひかれる感じだ。②笑いだしたくなる感じだ。③（「おもしろくない」の形で、全体で）思うようにならなくて残念だ。

「多義立項基礎単位」

- (1) 笑い出したくなる様子。
- (2) 楽しくて、夢中になる様子。
- (3) 興味がそられる。退屈しない。興味深い。
- (4) 趣がある。
- (5) 思うとおりで好ましい。（否定形で使うことが多い。）

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/4 ①	1/4 ③	1/3/2=1/6	1/5	1/3	0.2400
(2)	1/4 ②	1/4 ①	1/3/2=1/6	1/5	1/3	0.2400
(3)	1/4 ③	1/4/2=1/8 ②	1/3	1/5		0.1816
(4)		1/4/2=1/8 ②		1/5	1/3	0.1316
(5)	1/4 ④	1/4 ④	1/3	1/5		0.2066

「主要多義立項意味関係」

┌───┐ ├───┐ └───┘	直情的心情	———— (1) 0.2400	↑ 心情性大 ↓ 属性性大
	感覚的心情	———— (2) 0.2400	
	形態的束縛	———— (5) 0.2066	

3) 「やさしい」

『学研』 2

①たやすい。容易である。②（理屈っぽくなく）わかりやすい。

『新潮』 1

①特別の努力や困難なしの物事に当たることができる。平易である。容易だ。簡単である。たやすい。

辞書に見られる多義立項基準をめぐって

『現代』 2

- ①わかりやすい。②簡単である。

『三省』 2

- ①かんたんでわかりやすい。②単純で苦勞しなくてもよい。

『例解』 1

- ①かんたんで、やろうと思えばすぐできる感じである。わかりやすい。

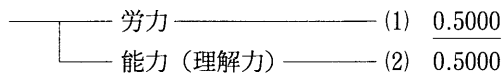
「多義立項基礎単位」

- (1) たやすい。  
(2) わかりやすい。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/2 ①	1*/2=1/2 ①	1/2 ②	1/2 ②	1*/2=1/2 ①	<u>0.5000</u>
(2)	1/2 ②	1*/2=1/2 ①	1/2 ①	1/2 ①	1*/2=1/2 ①	<u>0.5000</u>

「主要多義立項意味関係」



4) 「やすい (易)」

『学研』 4

- ①「質・量などのわりに」値段が低い。②不安や悩みなどがなく、心がおだやかである。また、心身に無理がなく、楽である。③軽々しい。おそまつだ。下品だ。④<「おー・ない」の形で>男女の間柄の親密なことをからかっていう語。

『新潮』 1

- ①特別の努力や困難なしに物事に当たることができる。平易である。容易である。簡単だ。たやすい。

『現代』 1

- ①楽々と物事を行うことができる。たやすい。

『三省』 1

- ① (文章語) 簡単にできるようだ。

『例解』 1

- ①「やさしい」の古い言いかた。

語義の分割は見られない。また、文章語、古語という指摘が見られるように位相的に限定のある語であると言えよう。

5) 「おそい」

『学研』 4

① [動きがにぶく] 事を行うのに時間が余分にかかる。のろい。②ある時刻におくれているので役にたたない。まにあわない。③時間的にあとである。④時間がだいぶたっている。特に、(夜が) ふけている。また、(秋が) 終わりに近づいている。

『新潮』 4

①ある時間の幅の中で夜の方のころである。②時間や時期が遅れている。③間に合わない。④動作がゆっくりしている。

『現代』 4

①動作や作用に時間がかかる。のろい。②頭や心の動きがにぶい。③時がたっている。④時機に遅れている。間に合わない。手遅れだ。

『三省』 4

①速度が、のろい。②間に合わない。③時間が過ぎている。④時間が長引く。

『例解』 3

①ものごとをするのが、ほかと比べて時間がかかる。②時間や時期がたっている。③まにあわない。

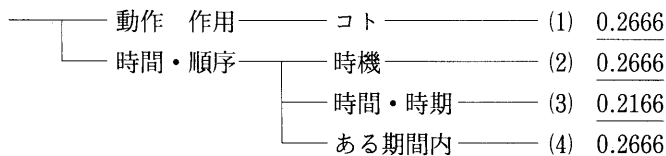
「多義立項基礎単位」

- (1) 行動がおそい。のろい。
- (2) 時機がおくれている。間にあわない。
- (3) 時間的におくれる。時期的におくれている。
- (4) 時間幅の後の方だ。夜や終わりに近い。
- (5) 頭や心の動きがにぶい。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/4 ①	1/4 ④	1/4 ①	1/4 ①	1/3 ①	0.2666
(2)	1/4 ②	1/4 ③	1/4 ④	1/4 ②	1/3 ③	0.2666
(3)	1/4 ③	1/4 ②		1/4 ③	1/3 ②	0.2166
(4)	1/4 ④	1/4 ①	1/4 ③	1/4 ④		0.2666
(5)			1/4 ②			0.0500

「主要多義立項意味関係」



6) 「はやい (早、速)」

『学研』 4

①一定の時間内にたくさん・変化する (動く) ようすである。スピードがある。すみやかだ。② [基



辞書に見られる多義立項基準をめぐって

準になる時とくらべてそれより] 時刻・時期が前である。③まだその時期ではない。④てっとりばや  
い。簡単だ。

『新潮』 4

①時間があまりかからない。すばやい。てっとりばやい。②まだその時刻・時期でないさま。③ある  
期間の中で始めの方であるさま。間もない。③動きが急である。すばしこい。④作用の速度が大きい。

『現代』 4

①動作や作用に時間がかからないさま。迅速である。敏捷である。②ある期間に入ってから間がない。  
③その時期に達していない。適当な時期までにまだ間がある。④物事が時間をおかないで続くさまを  
表す。... するやいなや。

『三省』 5 (二語としている。)

[早い] ①時間が短くてすむようす。②まだ、その時期なっていないようす。③「時間が」前である  
ようす。

[速い] ①きまった時間に動く距離や、する仕事の量が多いようす。②動きがはげしい(・急)なよ  
うす。

『例解』 3

①他と比べて、短時間でものごとがすすむようす。②ある時間や時期のなかで、まえの方である。③  
ある時刻や時間にまだなっていない。

「多義立項基礎単位」

- (1) 一定の時間にたくさん変化する(動く)ようすである。
- (2) 基準時より前である。
- (3) まだ時期でない。
- (4) 手っ取り早い。簡単だ。
- (5) ある期間の始めの方である。
- (6) 動きが急である。すばやい。
- (7) 作用の速度がはやい。
- (8) (「気のはやい」で) 早合点である。ずっと前から用意する様子である。
- (9) 間をおかないで続くさま。するやいな。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/4	1/6/2=1/12	1/4/3=1/12	1/5	1/3	0.2166
(2)	1/4	1/6/2=1/12		1/5/2=1/10	1/3/2=1/6	0.1333
(3)	1/4	1/6/2=1/12	1/4	1/5	1/3/2=1/6	0.2166
(4)	1/4	1/6/2=1/12				0.0666
(5)		1/6	1/4	1/5/2=1/10	1/3	0.1833
(6)		1/6	1/4/3=1/12			0.0500
(7)		1/6	1/4/3=1/12	1/5		0.1166
(8)		1/6				0.0300
(9)			1/4			0.0500

「主要多義立項意味関係」

—	動作・作用	動作	(1)	<u>0.2166</u>
		作用	(7)	<u>0.1166</u>
—	時間・順序	基準時	(2)	<u>0.1333</u>
		期間	(5)	<u>0.1833</u>
		時機	(3)	<u>0.2166</u>

7) 「ふるい」

『学研』3

①その・物(事柄)が発生してから長い年月・時間がたっている。新しさ・珍らしさなどがない。②前の時代に属している。昔のことだ。③時代おくれである。陳腐だ。古風だ。

『新潮』5

①現在から過去への時間の隔たりが多い。昔である。年月や日時がたっている。②今までにも現れたことがある。新しさがない。使い古されている。珍しくない。陳腐である。③現代には適応しない。時代おくれである。古臭い。④生鮮食品が、新鮮でない。⑤その物が作られてから多くの時間がたち、よごれやいたみがある。

『現代』2

①遠い昔のことに属するさま。現代まで時間を経ているさま。②時代遅れである。陳腐だ。

『三省』3

①長い年月がたっているようすだ。②進歩や変化がなくて、今の時代に合わないようす。③以前のものであるようす。新鮮でないようす。

『例解』2

①ながい年月がたっている。②これまでと同じで、あまり変化が感じられない。時代おくれである。

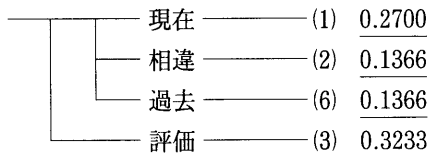
「多義立項基礎単位」

- (1) 過去への隔たりが多い。
- (2) 今までにも現れたことがある。新しさがない。めずらしくない。
- (3) 時代おくれである。
- (4) 新鮮である。
- (5) よごれやいたみがある。
- (6) 昔のことだ。
- (7) 使い古されている。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/3/2=1/6 ①	1/5/2=1/10 ①	1/2/2=1/4 ①	1/3 ①	1/2=1/2 ①	<u>0.2700</u>
(2)	1/3/2=1/6 ①	1/5/2=1/10 ②		1/3/2=1/6 ③	1/2/2=1/4 ②	<u>0.1366</u>
(3)	1/3 ③	1/5 ③	1/2 ②	1/3 ②	1/2/2=1/4 ②	<u>0.3233</u>
(4)		1/5 ④				0.0733
(5)		1/5 ⑤		1/3/2=1/6 ③		0.0400
(6)	1/3 ③	1/5/2=1/10 ①	1/2/2=1/4 ①			<u>0.1366</u>
(7)		1/5/2=1/10 ②				0.0200

「主要多義立項意味関係」



8) 「したい」

『学研』3

①血筋が近い。②心にへだてがなく、仲がよい。親密である。③常に接していて、関係が深い。なじみが深い。

『新潮』2

①血筋が近い。②互いに仲がよい。むつまじい。懇意である。

『現代』3

①血筋が近い。②むつまじい。仲がよい。③間のあたりに物を見たり聞いたりするさま。多く、天皇など高貴の人が直接物事をする場合について言う。

『三省』2

①仲がよくえんりょなくつきあっているようす。②なじみが深い。

『例解』1

①よく接していて、なじみがふかい。

「多義立項基礎単位」

- (1) 血筋が近い。
- (2) 仲がよい。親密である。
- (3) つねに接していて、なじみが深い。
- (4) まのあたりに見たり、聞いたりするさま。
- (5) 直接自分で事を行うさま。(高貴な人が直接物事をする場合)

「多義立項辞書別一覧」

独立度

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/3 ①	1/2 ①	1/4 ①			<u>0.2166</u>
(2)	1/3 ②	1/2 ②	1/4 ②	1/2 ①		<u>0.3166</u>
(3)	1/3 ③			1/2 ②	1/1 ①	<u>0.3666</u>
(4)			1/4 ③			0.0500
(5)			1/4 ④			0.0500

「主要多義立項意味関係」

— ヒト —————	(1)	<u>0.2166</u>
— 対、ヒト —————	(2)	<u>0.3166</u>
— 対、モノ・コト ———	(3)	<u>0.3666</u>

9) 「ひとしい」

『学研』2

①二つ以上のものを、ある観点からみた場合、それらの性質・数量・程度などの間に異なるところがない。②その状態が他によく似ている。まるで... のようだ。

『新潮』2

①形態・数量・性質などが、同じである。②同時である。

『現代』2

①同じであるさま。②好ましくないものと似ている。

『三省』1

①（文章語）二つ（以上の）物事の、数量・程度・状態・やり方などの変わりが無い。

『例解』2

①二つ以上のものが、同じである。②あるものの状態や性質が、ほかのものと同じだと言ってよいほどよく似かよっている。

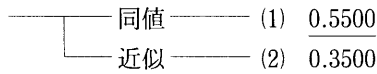
「多義立項基礎単位」

- (1) 異なるところがない。
- (2) (好ましくないものと) よく似ている。
- (2) 同時である。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/2 ①	1/2/2=1/4 ①	1/2 ①	1/1 ①	1/2 ①	<u>0.5500</u>
(2)	1/2 ②	1/2/2=1/4 ②	1/2 ②		1/2 ②	<u>0.3500</u>
(3)		1/2 ③				0.1000

「主要多義立項意味関係」



10) 「めずらしい」

『学研』 1

①見たり聞いたりすることがまれである。めったにないので目新しい感じがする。

『新潮』 5

①めったにない。見たり聞いたり経験するのがまれである。②久しぶりである。長い間見ることがない。③初めてで、新鮮な感じがする。④めったになく、賞美する価値がある。⑤不思議である。奇妙である。

『現代』 1

①見ることがまれである。

『三省』 4

①たまにしかおこらない。めったにない。②ふつうとかわっている。③あまり多くないので、貴重なねうちがある。④(「お～」の形で) 久しぶりだ。

『例解』 3

①めったにない。②ふつうとかわっている。③めったにないため貴重である。

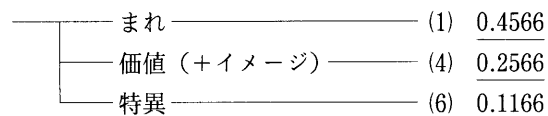
「多義立項基礎単位」

- (1) めったにない。見聞きすることがまれである。
- (2) 久しぶりである。
- (3) 初めてである。
- (4) めったになく、賞美する価値がある。
- (5) 奇妙である。不思議である。
- (6) ふつうと変わっている。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1* /2=1/2 ①	1/5 ①	1/1 ①	1/4 ①	1/3 ①	<u>0.4566</u>
(2)		1/5 ②		1/4 ④		0.0900
(3)		1/5 ③				0.0400
(4)	1* /2=1/2 ①	1/5 ④		1/4 ③	1/3 ③	<u>0.2566</u>
(5)		1/5 ⑤				0.0400
(6)				1/4 ②	1/3 ②	<u>0.1166</u>

「主要多義立項意味関係」



意味立項が変化に富んでいる。

11) 「はげしい」

『学研』 2

①程度がはなはだしい。度を越えている。②勢いが鋭く強い。

『新潮』 2

①勢いが強い。荒々しい。②程度が大きい。はなはだしい。ひどい。

『現代』 2

①勢いが激しい。②程度が甚だしい。

『三省』 2

①勢いが強く、するどい。②はなはだしい。

『例解』 2

①いきおいがたいへんつよい。②ていどがふつうではないほどひどい。

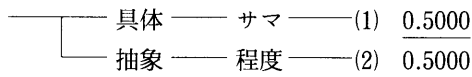
「多義立項基礎単位」

- (1) 勢いが鋭くつよい。
- (2) 程度が強い。甚だしい。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/2 ②	1/2 ①	1/2 ①	1/2 ①	1/2 ①	<u>0.5000</u>
(2)	1/2 ①	1/2 ②	1/2 ②	1/2 ②	1/2 ②	<u>0.5000</u>

「主要多義立項意味関係」



12) 「やすい (安)」

『学研』 4

① [質・量などのわりに] 値段が低い。②不安や悩みなどがなく、心がおだやかである。また、心身に無理がなく、楽である。③軽々しい。おそまつだ。下品だ。④<「おー・ない」の形で>男女の間柄の親密なことをからかっていう語。

『新潮』 2

①心にこだわるところがない。心が穏やかである。平静である。②品質や数量の割に値段が低い。他と比べて値段が低い。安価である。

『現代』 5

①障害や不安がない。②気楽である。③安価である。④粗末に扱うようである。⑤ (「お安くない」の形で) 男女が特別の間柄にあるさま。また、それを冷やかして言う語。

『三省』 1

①値段がひくい。

『例解』 1

①金がすこししかかからない。

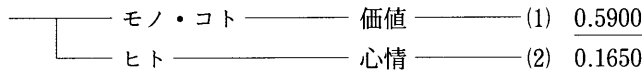
「多義立項基礎単位」

- (1) 安価である。
- (2) 心穏やかである。
- (3) 気楽である。
- (4) 粗末に扱うようすである。軽々しい。下品だ。
- (5) (「お安くない」の形で) 男女の特別な関係を言う語。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独 立 度
(1)	1/4 ①	1/2 ②	1/5 ③	1/1 ④	1/1 ①	0.5900
(2)	1/4/2=1/8 ②	1/2 ①	1/5 ①			0.1650
(3)	1/4/2=1/8 ②		1/5 ②			0.0650
(4)	1/4		1/5 ④			0.0900
(5)	1/4		1/5 ⑤			0.0900

「主要多義立項意味関係」



13) 「わるい」

『学研』 3 (10)

ある現象が、なんらかの基準からはずれたりなんらかの要求に反したりするときに、その現象を、思わしくない、好ましくない。または望ましくない現象として評価するという語。① [人に及ぼす作用・影響を評価する場合] 一般に、不都合である。適当でない。有害である。めいわくである。② [感知し得る物事の状態を評価する場合] イ、[特に人の状態に関する場合。] a、[考え方・行動などが] 道徳・法律その他の社会的規範に照らし合わせて好ましくない。b、能力的に劣っている。c、顔・体などの外見が劣っている。美しくない。みにくい。d、心の状態が通常とちがって思わしくない。e、体の調子が通常とちがって思わしくない。f、運・環境・状況などが好ましくない。ロ、[特に物の状態に関する場合。] ハ、[特に自然現象・社会現象などに関する場合。] ③ [特に、会話文中で、こちらの行為が相手に対してめいわくや不都合な影響を及ぼすことを言う場合] 気の毒である。申しわけない。

『新潮』 11

①道徳的な規準にそむいている。人の道をはずれている。②相手に不利益・不都合となる。また、迷惑をかける。相済まない。失礼である。③事物の質や価値が劣る。④不都合である。具合がよくない。⑤からだの調子がよくない。病気である。⑥不愉快である。不快を感じる。⑦評判・外聞・体裁など

が、自分にとって不利・不都合である。⑧醜い。美しくない。⑨正常でない。ふだんの調子でない。  
⑩反目した間柄である。⑪つたない。

『現代』3

①一般に感心しない。好ましくない。②特に、道徳上よくない。③相手に申し訳がない。すまない。

『三省』10

①正しくない。②正常でない。③このましくない。④むつまじくない。円満でない。⑤害をあたえる状態だ。⑥おとっている。⑦不吉である。⑧はたらきや状態がふつうでない。⑨きのどくである。⑩食べ物がいたんでいる。

『例解』7

①道徳的によくない。けしからん。②めぐりあわせがよくない。③質がよくない。力がおとっている。  
④よく機能していない。順調でない。さしさわりがある。⑤接した感じがよくない。⑥正常でない。  
おちどがある。欠陥がある。⑦すまない。申しわけない。

多義立項にばらつきが目立つ。そのため、基礎単位の設定が困難であるが、無理があることを承知で示しておこう。

「多義立項基礎単位」

- (1) 道義的規準にそむいている。
- (2) 相手に不利益不都合となる。すまない。申し訳ない。失礼である。
- (3) 質・価値が劣る。
- (4) 一般に不都合である。具合が悪い。
- (5) 体調がよくない。
- (6) 不愉快である。不快である。
- (7) 評判外聞体裁などが自分にとって不利不都合である。
- (8) 醜い。
- (9) いつもと違ってよく機能していない。
- (10) 反目した間柄である。睦まじくない。
- (11) つたない。できがよくない。能力的におとる。
- (12) 望ましくない。
- (13) 運、環境、状況などが好ましくない。巡り合わせがよくない。
- (14) 落ち度がある。欠陥がある。
- (15) 食べ物が痛んでいる。
- (16) 社会現象・自然現象が不都合である。
- (17) いつもの状態ではない。
- (18) 害を与える状態だ。
- (19) 接した感じがよくない。
- (20) 心の状態が通常と違って思わしくない。
- (21) 物の状態が思わしくない。
- (22) 不吉である。

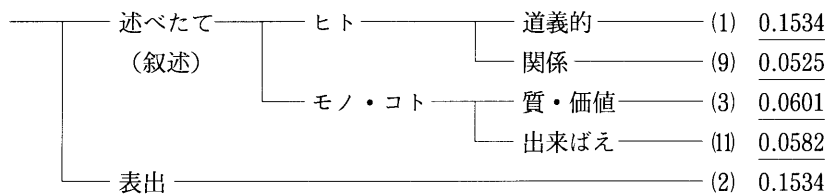


辞書に見られる多義立項基準をめぐって

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独 立 度
(1)	1/10 ②	1/11 ①	1/3 ②	1/10 ①	1/7 ①	0.1534
(2)	1/10 ⑩	1/11 ②	1/3 ③	1/10 ⑨	1/7 ⑦	0.1534
(3)		1/11 ③	1/3/5=1/15 ①		1/7 ③	0.0601
(4)	1/10/3=1/30 ①	1/11 ④				0.0248
(5)	1/10 ⑥	1/11 ⑤	1/3/5=1/15 ①			0.0515
(6)		1/11 ⑥			1/7/2=1/14 ④	0.0325
(7)		1/11 ⑦	1/3/5=1/15 ①			0.0315
(8)	1/10 ④	1/11 ⑧				0.0382
(9)		1/11 ⑨		1/10 ⑧	1/7/2=1/14 ④	0.0525
(10)		1/11 ⑩		1/10 ④		0.0382
(11)	1/10 ③	1/11 ⑪		1/10 ⑥		0.0582
(12)	1/10/3=1/30 ①		1/3/5=1/15 ①	1/10 ③		0.0400
(13)	1/10 ⑦				1/7 ②	0.0486
(14)					1/7/2=1/14 ⑥	0.0143
(15)	1/10 ⑧		1/3/5=1/15 ①	1/10 ⑩	1/7/2=1/14 ⑥	0.0676
(16)	1/10 ⑨					0.0200
(17)				1/10 ②		0.0200
(18)	1/10/3=1/30 ①			1/10 ⑤		0.0267
(19)					1/7 ⑤	0.0286
(20)	1/10 ⑤					0.0200
(21)	1/10 ⑧					0.0200
(22)				1/10 ⑦		0.0200

「主要多義立項意味関係」



14) 「よわい」

『学研』5

①他と争えば負ける。力や勢力が少ない。② [音などが] かすかだ。③不得意だ。苦手だ。④他からの力や刺激に対する抵抗力に乏しい。⑤病気にかかりやすい。病弱だ。

『新潮』7

①他に対する力が小さい、また、足りない。②他から受ける力に耐える力が小さい。強度が足りない。もろい。③肉体的な力が小さい。④意志を貫く力が小さい。他から受ける精神的な力に影響されやすい。⑤ (「... に弱い」の形で) イ、そのものに関する能力や実力が少ない。苦手である。不得意であ

る。ロ、抵抗しにくい。そのものの誘惑に耐えることができない。⑥程度が低い。軽い。⑦取引用語で、相場が下落気味である。弱含みである。

『現代』4

①強い力や、勢いが無い。②こわれやすい。しっかりしていない。③精神的に、肉体的に、あるいは能力の面で劣っている。しっかりしてない。④抵抗しにくい。

『三省』11

①力や勢いがおとる。②やぶれやすい。長くもたない。③「からだ」がじょうぶでない。④「音・光などが」かすかだ。⑤「作用が」はげしくない。⑥数量が少ない。⑦いくじがない。ひるみやすい。⑧受け入れる力がおとる。⑨得意ではない。にがてだ。⑩（俗語）立ち向かいにくい。⑪（俗語）あまい態度をとるようす。

『例解』3

①力がたりなくて、たよりにならない。②はたらきかけが小さい。③（「... に弱い」の形で、全体で）それに出あうと負けてしまう。

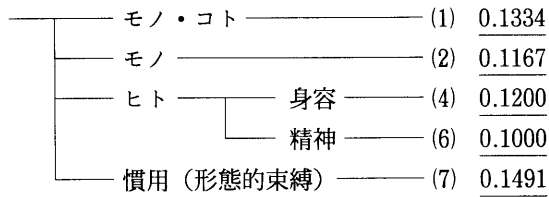
「多義立項基礎単位」

- (1) 力や勢いがすくない。負ける。
- (2) 抵抗力が乏しい。
- (3) 能力の面で劣っている。
- (4) 病気にかかりやすい。病弱だ。
- (5) 「光や音などが」かすかだ。
- (6) 精神力が劣っている。
- (7) （「～に弱い」の形で）抵抗しにくい。
- (8) （取引用語）相場が弱含みである。
- (9) 程度がひくい。
- (10) 作用が激しくない。
- (11) 数量が少ない。
- (12) 受け入れる力が劣る。
- (13) あまい態度をとる。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/5/2=1/10 ①	1/7 ①	1/4 ①	1/11 ①	1/3/4=1/9 ①	0.1334
(2)	1/5/2=1/10 ④	1/7 ②	1/4 ②	1/11 ②		0.1167
(3)	1/5 ③	1/7/2=1/14 ⑤	1/4/3=1/12 ③	1/11 ⑨	1/3/4=1/9 ①	0.0106
(4)	1/5 ⑤	1/7 ③	1/4/3=1/12 ③	1/11 ③	1/3/4=1/9 ①	0.1200
(5)	1/5 ②			1/11 ④		0.0582
(6)	1/5/2=1/10 ①	1/7 ④	1/4/3=1/12 ③	1/11 ⑦	1/3/4=1/9 ①	0.1000
(7)		1/7/2=1/14 ⑤	1/4 ④	1/11 ⑩	1/3 ③	0.1491
(8)		1/7 ⑦				0.0286
(9)		1/7 ⑥			1/3 ②	0.0286
(10)				1/11 ⑤		0.0848
(11)				1/11 ⑥		0.0286
(12)	1/5/2=1/10 ④			1/11 ⑧		0.0382
(13)				1/11 ⑪		0.0286

「主要多義立項意味関係」



15) 「うれしい」

『学研』 2

- ① にこにこしたくなる気持ちだ。じぶんの希望するとおりの状態であるので喜んでいる。喜ばしい。
- ② [俗] あいきょうがある。にくめない。かわいい。

『新潮』 1

- ① 心が満たされて、しあわせな気持ちである。

『現代』 1

- ① 物事が望ましい有様になったり、満足すべき状態にあると感じたりして、快い。心楽しい。喜ばしい。ありがたい。

『三省』 1

- ① いいことがあって、楽しい。

『例解』 1

- ① ものごとがうまくいって、満足できるようになって、明るくこころよい気持ちである。

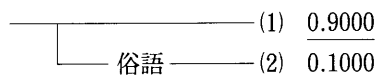
「多義立項基礎単位」

- (1) 心が満たされ、喜ばしい。
- (2) (俗) 愛嬌がある。憎めない。かわいい。

「多義立項辞書別一覧」

	学 研	新 潮	現 代	三 省	例 解	独立度
(1)	1/2	1/1	1/1	1/1	1/1	0.9000
(2)	1/2					0.1000

「主要多義立項意味関係」



16) 「たのしい」

『学研』 1

- 心がみちたりて、明るく愉快的な気持ちである。心配やわずらいごとがなく、こころよい。

『新潮』 1

- ① 心が満ち足りて快い気持ちがするさま。愉快である。

『現代』 1

①心が満ち足りて、快いさま。

『三省』 1

①うれくて、心がうきうきしているようす。

『例解』 1

①とてもうれしくて、心がうきうきしている。

分割例は見られない。

### Ⅲ. 形容詞の多義分割（多義立項）に働く意味的基準について

形容詞の多義立項を考える上で、留意しなくてはならない点について触れておきたい。

①形容詞は動詞に比べ、格（所謂必須格）が少なく、その種類も少ない。また、格体制も単純でかつその種類も少ない。そのため、動詞のように格の在り方に頼ることが出来ない。

②また、形容詞特有の意味の在り方・捉えられ方として、モノ・コト・ヒトの属性（感じさせ手）についての形容が主か、（感じ手）の感覚・心情（感情）についての形容が主かといった問題がある。所謂感情形容詞、感覚形容詞、属性形容詞の別である。

各語彙を見てくると、様々なことに気付かされる。語義の区切り方が各辞書ほぼ一定である語彙がある一方、辞書によって区切り方に大きな相違が見られるものがあることを始めとして、多義数の多いもの少ないものがあること、基準と思われるものに共通性が見られること等がそれである。

ここでは、本稿の当面の目標である分割基準に焦点をあてつつまとめていくことにしたい。

#### （1）各語にみられる語義分割（独立）意味基準について

ここでは、どのような意味特徴を持つものが立項されるかを各語について整理して示しておこう。（意味特徴はと思われるものは〈 〉で示した。（ ）内に、〔基礎〕とあるのは、その語義の元なるものと考えられるものである。通常辞書では最初に立項されているものである。）

- ① 「あぶない」——— 〈現在・具体〉〔基礎〕／〈期待〉／〈評価〉
- ② 「おもしろい」——— 〈心情〉〔基礎〕／〈感覚〉／〈慣用句・形態的束縛〉
- ③ 「やさしい（易）」—— 〈労力〉・〈具体〉〔基礎〕／〈能力〉；〈理解力〉・〈抽象〉
- ④ 「やすい（易）」——— 〈文章語〉〔基礎〕
- ⑤ 「おそい」——— 〈空間〉〔基礎〕／〈時間〉〈評価〉／〈時間〉〈時点〉／〈期間〉
- ⑥ 「はやい（早・速）」—— 〈空間〉〔基礎〕／〈時間〉／〈評価〉／〈時点〉／（〈期間〉）
- ⑦ 「ふるい」——— 〈現在〉〔基礎〕／〈相違〉／〈過去〉／〈評価〉
- ⑧ 「したい」——— 〈ヒト〉〔基礎〕／〈対ヒト〉／〈対モノ・コト〉
- ⑨ 「しとしい」——— 〈同値〉〔基礎〕／〈近似〉
- ⑩ 「めずらしい」——— 〈まれ〉〔基礎〕／〈価値〉；プラスイメージ／（〈相違〉）；  
マイナスイメージ
- ⑪ 「はげしい」——— 〈サマ〉〔基礎〕／〈程度〉
- ⑫ 「やすい（安）」——— 〈モノ・コト〉〔基礎〕；〈価値〉／〈ヒト〉；〈心情〉

- ⑬ 「わるい」——— 〈ヒト〉 〈道義〉〔基礎〕／(表出)／〈ヒト〉 〈関係〉／  
 〈モノ・コト〉 〈質、価値〉／〈モノ・コト〉  
 〈能力；出来ばえ〉
- ⑭ 「よわい」——— (慣用)／〔基礎〕／〈モノ〉／〈ヒト〉 〈身容〉／〈ヒト〉  
 〈精神〉
- ⑮ 「うれしい」——— 〈心情〉〔基礎〕／(俗語)
- ⑯ 「たのしい」——— 〈心情〉〔基礎〕

(2) 上にまとめた各意味特徴をみると、先ず、次元の異なるものとしては、「わるい」において、「表出」と記したものを指摘しておく必要がある。これは「働き掛け」「表出」「述べたて」「問い掛け」といった表現・伝達類型といった次元での相違である。

また、「おもしろい」「よわい」「うれしい」に見られるように、慣用句表現、俗語表現、といったものを意味として異なるものとする傾向があることを確認できよう。これらも次元を異にするものである。

いわゆる他の意味特徴と重なりあう形での〈具体〉〈抽象〉といった意味特徴はここにおいても見逃せない要素となっている。

形容主体の本体としての、〈コト〉〈モノ〉〈ヒト〉の別は、「やすい」「わるい」「よわい」等においても見られるように重要な位置を占めることが読み取れる。

〈空間〉と〈時間〉、〈価値〉又は〈評価〉?、〈属性〉と〈感覚〉と〈心情〉、〈サマ・様態〉と〈程度〉などの対立も意味を独立して立項させることが多いようである。

さらに下位のレヴェルにおいて語義分割に働いていると思われる意味特徴に、〈労力〉〈能力〉〈時点・点〉〈期間・広がり〉〈働き・機能〉〈相違・類型〉といったものがある。

注目したいものに、「期待」として挙げたものがある。これは、対象の属性と言うより、ヒトがどのようにその対象にたいして「思い入れ」をしているか(ここでは「期待」しているか)が反映されたものである。

この他、「めずらしい」において、「プラスイメージ」「マイナスイメージ」として記したのも指摘しておく必要がある。

## おわりに

意味特徴及び意味特徴の体系についての考察はいずれ稿を改めて行うことにしたい。本稿では具体的な語についてどのような意味特徴が働いているかを指摘するに止めた。

1992. 8. 27

### 〔辞典等〕

- (1)『学研国語大辞典』金田一、池田 編(1978)
- (2)『例解新国語辞典』林、野元、南 編(1984)
- (3)『新潮現代国語辞典』山田、築島、白藤、奥田 編(1985)
- (4)『現代国語例解辞典』林 編(1985)
- (5)『三省堂現代国語辞典』市川他編(1988)

- (6) 『基礎日本語』1、2、3 森田 良行 (1977、1980、1984)
- (7) 『形容詞の意味用法の記述的研究』国立国語研究所 西尾寅弥 (1972)
- (8) 『計算機用日本語基本形容詞辞書 I P A L (Basic Adjectives)』情報処理振興事業協会 (1990)
- (9) 『現代形容詞用法辞典』飛田、浅田共著 (1991)
- (10) 『角川類語新辞典』大野、浜西 共著 (1981) (改訂版『類語国語辞典』1986)
- (11) 『日本語教育のための基本語彙調査』国立国語研究所 (1984)

〔参考文献〕

- (1) 丹保 健一 (1986a) 「多義語の語彙特徴についての小見—副詞を中心に—」  
(『文芸研究』第126集)
- (2) 丹保 健一 (1986b) 「辞書間に見られる多義記述の相違について—音象徴語を中心に—」(『国語語彙史の研究七』)
- (3) 丹保 健一 (1990a) 「多義語における語義配列について—形容詞語彙(性状)をめぐる—」  
(『三重大学教育学部研究紀要第41巻(人文・社会科学)』)
- (4) 丹保 健一 (1990b) 「五感語彙の多義性—多義の意味的広がりをめぐる—」(『金沢大学語学・文学研究』第19号)
- (5) 丹保 健一 (1990c) 「形状形容詞の語義分割をめぐる」(『国語学研究30』)
- (6) 丹保 健一 (1991a) 「多義語における中心的語義と周辺の語義—『かける』の場合—」(『文芸研究』第126集)
- (7) 丹保 健一 (1991b) 「多義語における語義の区切り方をめぐる—位置形容詞「高い」「低い」「遠い」「近い」の場合—」(『三重大学教育学部研究紀要第42巻(人文・社会科学)』)
- (8) 丹保 健一 (1992a) 「多義語における語義の区切り方をめぐる—刺激、数量、状態、性向を表す形容詞の場合—」(『三重大学教育学部研究紀要第43巻(人文・社会科学)』)
- (9) 丹保 健一 (1992b) 「多義語における中心的語義と周辺の語義—『かける』の場合—(2)」(『文芸研究』第130集)
- (10) 丹保 健一 (近刊) 「多義語における語義・多義の配列について—形容詞の場合—」(『国語論究4』明治書院)
- (11) 情報処理振興事業協会 (1990) 『ソフトウェアのための日本語処理の研究10』
- (12) 仁田 義雄 (1991) 『日本語のモダリティと人称』